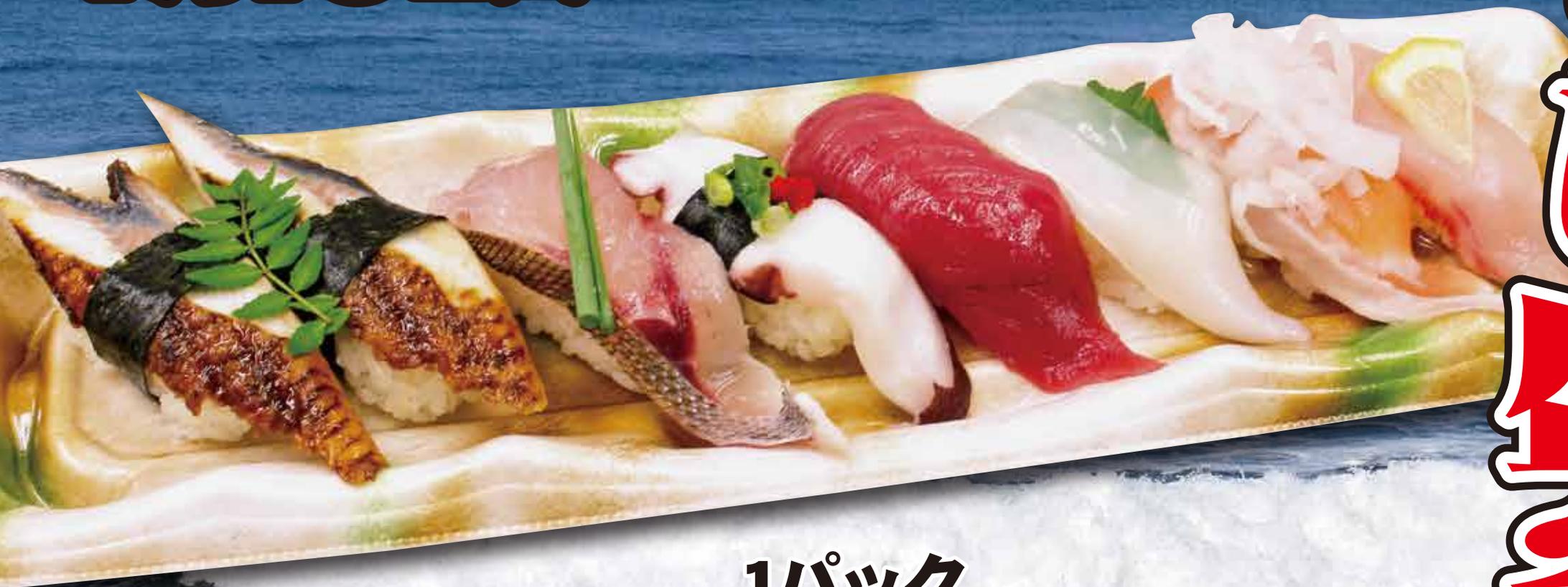


7月10日(日)



夏のうまい魚を選びすべし

すし盛炎夏

1パック

1,000(税込)円



西田鮮魚店

☎72-5246

専用番号 ☎090-7125-5489 〈御用聞き便 (旧庄原市内はご自宅に配達)〉

暑い日が、毎日続いていますね。食欲もなくなりやすいですね。

今回コメント、祐宗の番がようやく回ってきました！みんなでコメント回すとだいぶ違いますね(笑)。

今回おすすめの商品はすし盛8貫。

四万十川清流で育った鰻を2貫入れ、更にスタッフ一同絶賛!!今が旬のイサキ、当店西浦仕立ての茹でたこを入れての盛合せ8貫。

先週茹でたこをやりきった西浦さん、とても良い顔していました！お客様から後日、沢山お褒めの言葉を頂き自信がきました！って言うてました。だから、今回も西浦さんに「たこ頼むね♡」って言うて、眉間にシワよせなや！って私は思ったんですが…まあいいか。

そんなすし盛8貫(炎夏 税込み1000円で販売致します)。

そして、鰻の予約も15日迄です。まだご注文されていないお客様、ぜひ四万十川鰻をおすすめしますよ！

さあ暑い夏を、乗り越えましょう！ってらっしゃい！

西田鮮魚店 店長 祐宗 優司

将来Ⅱ

鮮コーポレーション(株) 代表取締役会長 西田 昌史

「フレスタさんはジョイフルを出てんですか？」

「そうよく聞かれる。ジョイフルに来られたお客さまからも、そういった質問をされるらしい。聞かれても、そんな話は知らないから困ると言う。そりゃそうだろう、私でさえ知らない。」

「移転する先は隣のウォンツさんということになっているらしい。今、板橋にウォンツさんの新店が建設されているから、ジョイフルの隣は閉められると思ったのだろう。私も、板橋の話聞いた時はそう思った。しかし、おっとどっこい、2店とも営業されるとのことだ。びっくりした。これは確かな情報。」

「春ころだったか、ドコモの横にウエルシアというドラッグストアが出店されると聞いた。さっそくググった。業界一の売り上げを誇るとあった。イオングループとか。それにしても、あまり聞かない名前だ。さらにググると、ひまわりさんの名前がグループにあった。こちらは、三次にもあるし、よく見かける。そうか、そういうことか。」

「ウォンツさんは広島発だからおなじみ。今、ツルハグループの一員になられている。ツルハグループは業界第2位。」

「余談だが、昔、30年くらい前だったかセミナーで鶴羽さんという人と隣り合わせになり、名刺交換したことがある。あとで人伝で、大きなドラッグストアチェーンの社長だと聞いた。もの静かな学者風な人だった。もちろん、それつきり。だが、私の名刺帳には、ちゃんと整理されている。そんなことがあって、なんとなく気になる存在だ。」

「それは、ともかく、業界1位と2位の会社か、と思いつつ、さらにさらにググると、業界第3位はコスモスさん。なんと、1位、2位、3位が揃い踏みだ。そこに、ザグザグさん。中堅チェーンと紹介してあったが、こちらだって中国を代表するチェーン店で年商836億円。」

「いらぬ心配だが、人口3万人そこそこの庄原に。ドラッグストアが5店舗。大丈夫なんか？と思うのは私だけではない。ドラッグストア業界は陣取り合戦だという。広島の本通りを歩くと、まさにその通りだと納得する。ドラッグ通りだ、あそこは。」

「世の中、喰うか喰われるか。つくづく、そう思う。商売をする身としては、背筋が寒くなる。」

「そんなことが言いたかったのじゃなかった。フレスタさんがジョイフルを出るのでは…。という噂についてだった。根も葉もない噂であることは間違いない。ただ、火の無いところに煙は立たない。火と言えるかどうかわからないが、噂が立つ要素ならある。」

「老朽化したジョイフルを見れば、誰だってそう遠くない将来、なんらかの決断を下さなければいけないだろうと思うはず。そんな観察が噂の出所じゃないか。」

「なにしろ45年前の建物だ。耐震構造が基準を満たしていない。そんな大地震が庄原を襲うとは思われないが、しかし、地球のことだ。わからない。他にも、方々で、不具合が目立ち、修理・修繕を必要としている。半端な額ではない。億単位だ。」

「ジョイフルに働く私たちも手を拱いて見ているわけではない。最後の改装から20年近くが過ぎた。その間、幾度もリニューアルの話が出た。しかし、実現しなかった。」

「つい2年前も、『ショッピングセンターの活性化及び将来構想策定に向けての調査・研究』という構想を冊子にまとめた。隣地の田園文化センターの活用も視野にいれた大構想だった。」

『社会貢献するコミュニティ機能』『ミックス型のSC施設づくり』『便利で効率的なコンパクトシティ』『子供や女性、高齢者が安全に過ごせる場づくり』等々。思いが綴られている。」

「しかし、いかにせん、それらを実現しようとするれば、30億円だの40億円だの、とても、自分たちの手に負えないお金がかかる。諦めざるをえなかった。」

「期待が大きい分、喪失感も大きかった。そこにコロナ禍が襲った。動くに足る力が湧かない。気を取り直して、動こうとするが、コロナが邪魔をする。動くに動けない。」

「しかし、時は確実に過ぎ、建物が悲鳴をあげているのが手に取るようにわかる。その間、私は70才になった。立派に高齢者だ。組合員、ほとんどが同世代。これが、20年前だったら…。誰しもがそう思っただろう。」

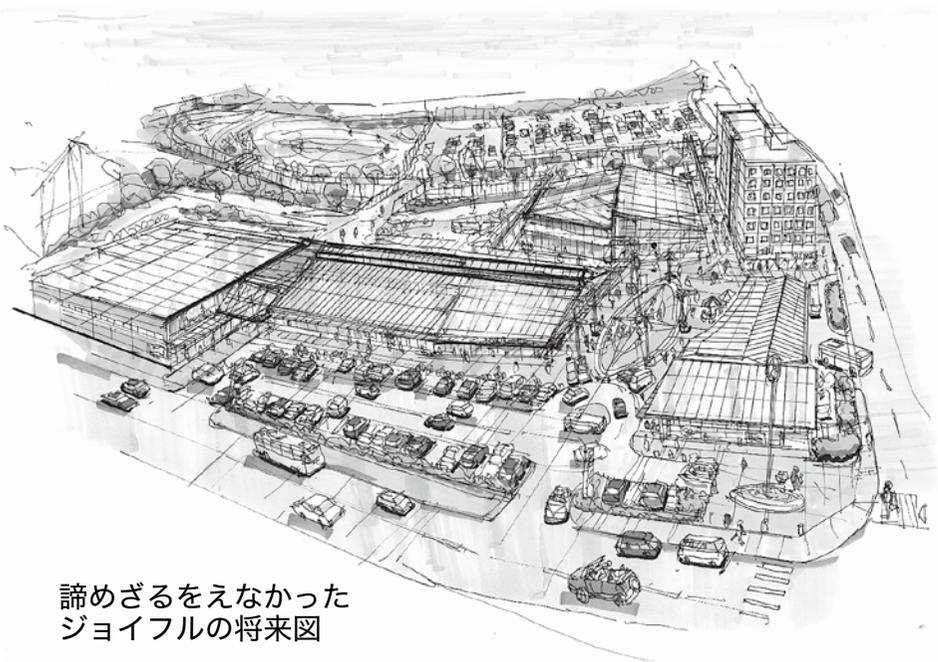
「だからと言って時は止まらない。時代は移る。私たちに合わせてはくれない。商業の世界も例外ではない。そして、庄原もまた例外ではない。ドラッグストアが庄原に5店舗。その現実が、私たちに多難な未来を突きつけている。」

「店と店との競争に見えてそうではない。それぞれの店が、変化し、進化し、今という時代に寄り添うことができるのか、その競争だ。」

「今あるジョイフルは解体しなければいけない。そして、今という時代、庄原という地域に合ったジョイフルに生まれ変わらなければいけない。」

「ジョイフルは、今、それを模索し、再び、動き始めた。2025年。3年後の実現を目指して。」

「形はまだ見えない。一寸先は闇！一寸先は光！さあどっちだ。」



諦めざるをえなかった
ジョイフルの将来図